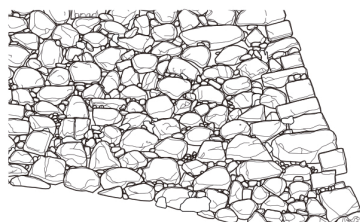
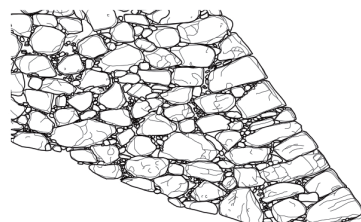


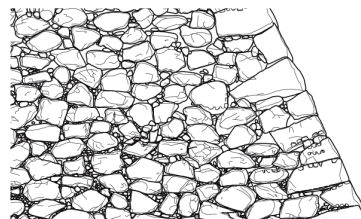
I a 様式 (天守台東の本丸東面下部)



I a 様式 (白沢門南東の本丸東面)



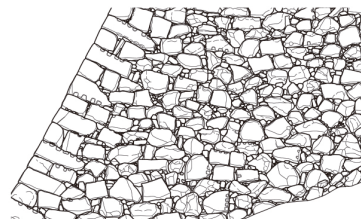
I b 様式 (天守台東の本丸東面北部)



I c 様式 (天守台の北面)



I d 様式 (常盤曲輪の西面)



I e 様式 (月見櫓下の本丸北面)



II 様式 (毘沙門曲輪の東面)



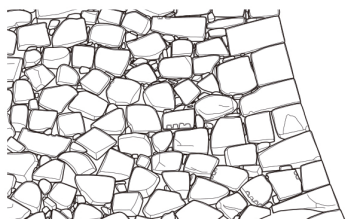
II 様式 (陣甫曲輪の東面)



II 様式 (毘沙門曲輪の南面東半)



III 様式 (坤櫓下の二ノ丸南面)



III 様式 (南門下の西面)



III 様式 (松蔵の西面)



IV 様式 (柳門の東面)

図 3-6 石垣の分類の主な箇所

③近世の石垣修理

17 世紀以前は記録に限られるが、天正 13 (1585) 年に天守が地震で崩れたと伝わり、文禄 5 (1596) 年の大地震では天守に被害があったことを示す史料がある。

幕府への申請等により修理が確認できる例は、元禄 15 (1702) 年の柳門東櫓台南面、宝永 4 (1707) 年の大地震による本丸多聞下と柳門枅形、安永 4 (1775) 年の陣甫曲輪東面と菊畑南東部、天明 5 (1785) 年の雨による毘沙門曲輪南東部、同 7 年の長雨による陣甫曲輪東面、安政 2 (1855) 年の大地震による天守台や周囲の本丸、常盤曲輪、毘沙門曲輪、二ノ丸、三ノ丸、慶応元 (1865) 年の弓櫓下部が挙げられる。

以上のように、郡山城の石垣は構築以来、大雨や地震で幾度か崩落したが、その都度修理されてきた。被害が毘沙門曲輪や陣甫曲輪等の丘陵東斜面に築いた石垣に多い傾向がある。

明治から昭和 40 年代までの修理は、詳細がわかっていない。白沢門南櫓台は、解体修理によって近代に積み直されたことが判明しているが、当時の修理について伝える史料はない。毘沙門曲輪の東面石垣は明治 38（1905）年には崩落しており、その後、進入路に整備された。

天守台の付櫓台南面石垣は、昭和 26 年の大雨で崩れて修復されたようだ。昭和 47 年には、すでに部分的に崩落していた常盤曲輪北東部の石垣が台風によって面的に崩落したため、大規模に積み直した。昭和 60 年頃の城郭建築再建事業の際、追手向櫓下部の石垣は、穴太衆の伝統技能を継承する栗田氏により本格的に修復された。高校用地内の松陰堀では堀とともに石垣が埋められ、埋め残し部分もその後に撤去や改変が進んだ。柳門の石垣は道路改修工事で改変された。松陰門の石垣は平成 9 年に崩落し、直ちに修理された。その翌年には、特定保水池整備事業により、すでに崩落が進んでいた鰻堀の石垣を埋め立てて、前面に新しく石垣を積み上げている。平成 15 年には本丸西面石垣の一部を修理している。

平成 27 年、変形が進んだ天守台石垣を解体修理した。郡山城では初めて文化財石垣として本格的な調査を伴っておこなった修理で、郡山城の価値を再評価する契機となった。以後は文化財石垣として解体修理することが標準となり、平成 30 年の白沢門櫓台石垣の解体修理においても、天守台での調査経験を引き継ぎ、綿密な調査を伴って修理がおこなわれた。



(S=1/5,000)

(3) 発掘調査

郡山城跡では、総構え内全域を対象として、奈良県と大和郡山市が発掘調査を実施してきた。令和6年3月末日時点で、調査次数は107次までである。第1次調査を実施した昭和54年の時点で、曲輪の一部が奈良県指定史跡となっていたが、調査次数は県史跡の範囲内外を合わせて計上している。史跡指定範囲内の調査件数は28件あり、そのうち26件が指定前におこなった調査である。その他は周知の埋蔵文化財包蔵地における記録保存の調査である。近年、天守台や極楽橋等で遺跡の整備事業に伴う調査が進み、近世を通じての城郭の変遷が解明されつつある。中でも豊臣期は文献史料がほとんど残っていない時期であり、発掘調査成果は当該時期の武家による畿内統治の過程を示す具体的な資料として、特に重要である。

城郭の中心部を構成する曲輪群では、学校や公園の施設整備に伴う調査や、遺跡の整備事業に伴う調査がおこなわれてきた。元々奈良県指定史跡の範囲内だった部分では、櫓や門等の城郭建築再建事業や石垣修復等の遺跡整備に伴う調査や、個人住宅や既存施設の改修等の現状変更に伴う調査が主体であった。二ノ丸や麒麟曲輪は、高校の施設整備に伴う調査が主体である。五軒屋敷等の低地部の曲輪では、官民の開発に伴う記録保存の調査が主体である。

史跡指定後は、指定範囲内では都市公園整備事業に伴って地下遺構の確認調査をおこなっている。

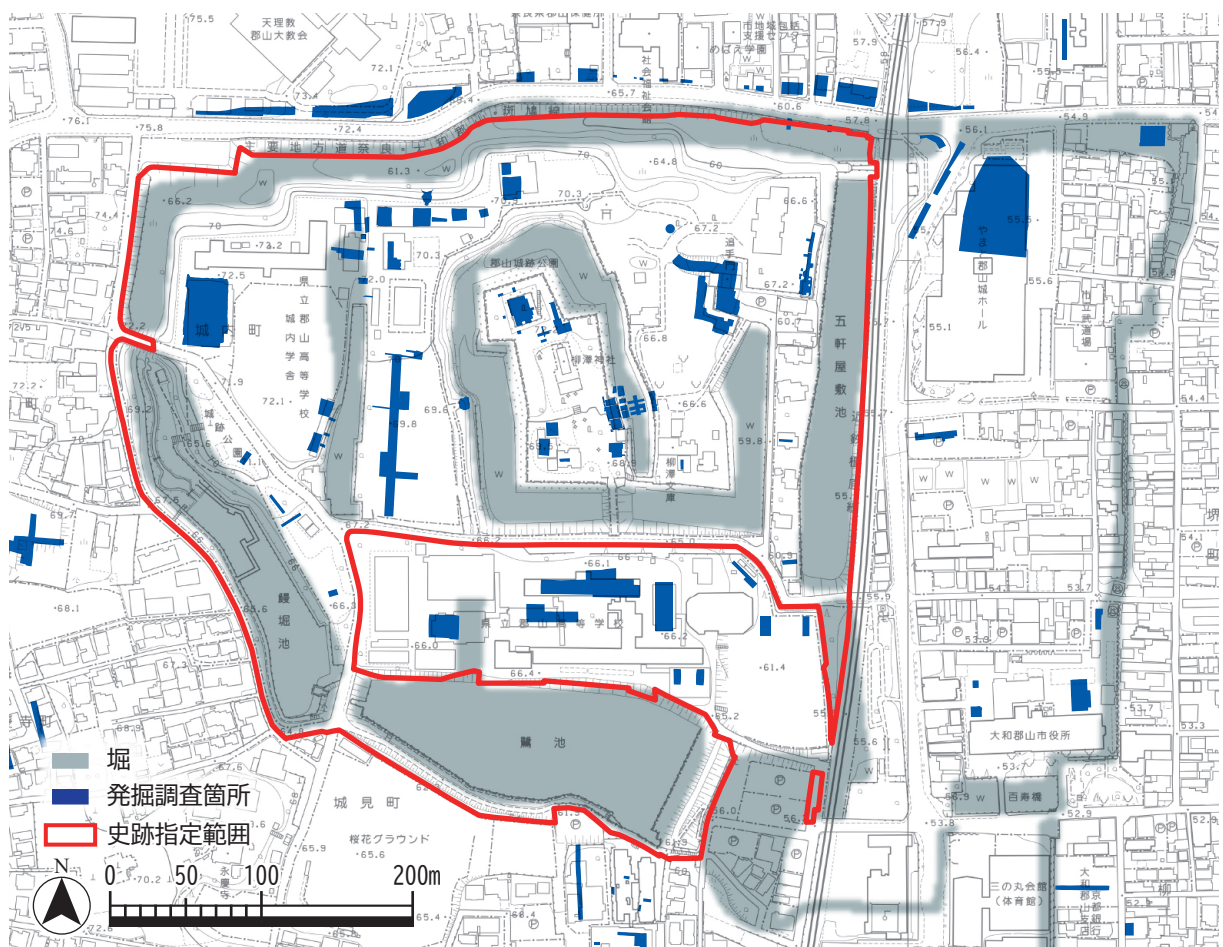


図 3-8 郡山城の発掘調査位置図（史跡指定地および周辺）

(S=1/5,000)